

<29年度事業報告> 法人全体の運営と事業

項目	「第12回通常社員総会」開催
内容	2016(平成28)年度の事業報告、決算報告、会費報告について報告しました。 2017(平成29)年度の事業計画、収支予算、役員改選等の報告を行いました。
概要	【日時】 2017(平成29)年5月14日(日) 15:00～16:45 【会場】 しいの実シアター

項目	理事会開催 年間 4回開催
概要	<p>第94回 5月10日(水) 定款変更の件、平成28年度事業報告、決算報告の件 平成29年度事業計画、事業予算案の件、役員改選の件</p> <p>第95回 11月17日(金) 資金借入の件</p> <p>第96回 1月6日(土) 平成29年度中途決算状況について 平成30年度助成金要望書について 平成30年度の法人運営について、 平成29年度中途決算状況について</p> <p>第97回 3月27日(火) 平成30年度予算について 平成30年度の組織図と業務分掌について 就業規則の改訂について 役員報酬支払の承認について 理事に使用人職務を委託する件について 外部理事の選任について 演劇祭の今後の方向性について</p>

項目	会員親睦交流会の開催
内容	総会に引き続き、会員手作り料理で会員親睦交流会を開催しました。
概要	【日時】 2017(平成29)年5月14日(日) 17:00～19:00 【会場】 しいの実シアターロビー

項目	やくもネット事務局とポータルサイトの運営
内容	やくもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支える活動を行いました。 八雲町の情報発信ツール「ようこそ八雲へ」において情報発信も担当しています。

項目	島根演劇ネット事務局
内容	島根演劇ネットの事務局として、運営を支える活動を行いました。 島根文化団体連合会の加盟団体として、「次世代育成事業」の事務局も行いました。 また、「蓮行氏のワークショップリーダー養成講座」を企画し、島根県内のワークショップ指導者養成に努めました。

法人事業として下記の業務を推進しました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
業務 委託	主催: 松江地域伝統芸能祭実行委員会 「松江地域伝統芸能祭 in 東出雲」	H30/3/18	東出雲ふれあい会館	延べ 26名	250名
	各町内が大切にしてきた伝統芸能の振興と普及を目指して、松江市合併後、各町を会場に、ほぼ毎年開催されている。あしぶえは、平成25年の八雲会場のときから、舞台スタッフとして関わっている。 今回は、東出雲町が会場となり、8団体が競演し、その舞台を支えた。				

その他、法人全体の運営として、下記の事業を行いました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講演	八雲更生保護女性会 総会 講師として講演	H29/6/10	かやぶき交流館	2名	30名
受入 研修	NPO研修として島根県職員を受入	H29/6/21～ H30/1/30	しいの実シアター かやぶき交流館	1名	—
受入 研修	NPO研修として松江市職員受入	H29/10/5～ H30/1/30	しいの実シアター かやぶき交流館	2名	—

NPO 法人スタッフ、劇場スタッフとして技術向上のため、下記の研修に参加しました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
研修	情報セキュリティー対策セミナー 参加	H29/11/15	松江テルサ4F会議室	1名	—
研修	しまね大作戦会議 参加 ～自慢したい職場をつくろう～	H29/11/17	くにびきメッセ小ホール	2名	—
研修	労働契約等解説セミナー 参加	H30/3/1	松江テルサ 401会議室	1名	—

<29年度事業報告> 表現・コミュニケーション能力育成事業

実施回数103回、従事者数 延べ164名、受益者数 延べ2,865名の方に提供しました。

① 学校		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	島根県立大学短期大学部 保育学科単発ワーク	H29/4/6	県立大学短期大学部 体育館アリーナ下教室	2名	52名
講師	島根県立大学短期大学部 選択科目 表現とコミュニケーション(前期講座) (計13回)	H29/4/10.17.24 H29/5/1.8.15.22.29 H29/6/5.12.19.26 H29/7/3	県立大学体育館 アリーナ	延べ 52名	延べ 364名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 松江市立八雲小学校 1年×2組、2年×3組、3年×2組 各3回(計21回)	H29/6/8、13、15 H29/7/6、9/22,29 H29/10/3 H30/1/23 H30/2/16	松江市立 八雲小学校	延べ 40名	延べ 551名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 大田市立久手小学校 2年、4年、ひまわり学級×3回(計3日) 3年1回、6年2回	H29/6/29 H29/7/5 H29/12/6	大田市立 久手小学校	延べ 6名	延べ 363名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 浜田市立原井小学校 3学年×2回	H29/7/4 H29/9/21	浜田市立 原井小学校	延べ 4名	延べ 82名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 飯南町立頼原中学校 1年×2回、3年×1回、2年×1回	H29/6/14 H29/9/25	飯南町立 頼原中学校	延べ 2名	延べ 66名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 島根県立出雲養護学校 1学年×3回 (計3回)	H29/7/10 H29/9/4 H29/12/18	島根県立 出雲養護学校	延べ 6名	延べ 144名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 松江市立八束学園(八束小学校) 3、4、5、6年生 6クラス各2回(計12回)	H29/6/28 H29/9/20 H29/12/4	松江市立八束学園 (八束小学校)	延べ 6名	延べ 263名
講師	文化庁芸術家派遣事業 島根県文化振興財団受託事業	H29/11/9	益田市匹見小学校 全校生徒×1 低×1、中×1、高×1	1名	44名

②企業、地域、PTA、その他		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	尚風館 「コミュニケーションタイム」、 劇場で発表会	H29/6/24 H29/7/1	松江歴史館 指南所 しいの実シアター	延べ 2名	延べ 58名
講師	まつえ市民大学 いきいき健康コース コミュニケーションワークショップ	H29/5/25	松江市 市民活動センター	2名	57名

②企業、地域、PTA、その他		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	どんぐり館 ファミリーサークル(土曜)	H29/5/20	どんぐり館あそび室	1名	17名
講師	私立中学高校青少年健全育成研修会	H29/6/27	益田市民 学習センター	2名	59名
講師	雲東ブロック商工会婦人部研修会	H29/6/23	松江市 しいの実シアター	2名	70名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 東部研修(計2回)	H29/7/19 H29/11/30	松江市 しいの実シアター・ かやぶき交流館	延べ 4名	延べ 79名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 西部研修(計2回)	H29/7/26 H29/12/07	浜田市 いわみ～る	延べ 4名	延べ 44名
講師	島根県看護協会出雲支部研修会	H29/6/17	斐川文化センター	延べ 3名	120名
講師	海外留学生直前ワークショップ 島根大学 国際センター	H29/6/17	島根大学内 研修室	2名	11名
講師	松江市美保関町森山やまびこ会	H29/10/4	松江市 しいの実シアター	1名	20名
講師	平成29年度「プラバ音楽の学校」 シリーズ第1回講座「リズムでコミュニケーション」	H29/10/4	松江市プラバホール 研修室	2名	22名
講師	島根県看護協会 「助産師職能新人研修」	H29/11/18	島根県看護 研修センター	1名	18名
講師	どんぐり館 星キラ事業(在宅母子)	H29/5/24 H29/12/01	どんぐり館 あそび室	延べ 3名	延べ 77名
講師	美保関森山やまびこ会	H29/10/04	しいの実シアター	1名	20名
講師	大島工務所(安全大会)	H29/10/06	安来学習訓練 センター	3名	60名
講師	プラバ音楽の学校	H29/10/21	プラバ 大会議室	2名	20名
講師	益田市 松本医院ワークショップ	H29/11/8	西益田振興センター	1名	15名
講師	㈱日通関連会社の安全協議会	H29/11/21	松江市平成町 組合会館	3名	60名
講師	八雲公民館 青少年活動ワークショップ	H29/12/25	八雲公民館会議室	2名	40名
講師	平成29年度ジュニアリーダー研修会	H30/3/3	サンレイク	2名	41名
講師	JA共済連しまね スタッフ研修ワーク	H30/3/8	ホテル玉泉	1名	13名
講師	郵便局 出雲東部地区連絡会 女性活躍推進会議 研修ワーク	H30/3/12	かんぼ生命保険ビル	1名	15名

<29年度事業報告> しいの実シアターの管理・運営事業

松江市の指定管理者として、①公演、人材養成、普及啓発の3本柱の事業

②自主事業 ③職員人材育成のための研修 ④建物管理、樹木管理等を推進しました。

<公演事業>

事業名	あしづえ公演「セロ弾きのゴーシュ」	分野	演劇
		創作種別	新演出
助成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業		
趣旨・目的	平成元年から続けてきた「セロ弾きのゴーシュ」は、大きく深化した。今回初の試みとして、島根県聴覚障がい者情報センターの協力により、字幕映像等による耳の聞こえにくい人にも作品を楽しんでもらえるよう工夫を行う。<しいの実シアターの宝>に仕上げるため、創造的挑戦を継続し海外公演につなげていく		
開催日時	平成29年6月18日(日) 7月2日(日) 23日(日) 10:30開演、14:00開演		
開催会場	しいの実シアター		
主なスタッフ	園山士筆(演出) 斉藤浩(作曲) 稲田道則(照明) 八幡垣睦子、八幡垣志保(衣裳) 藤本イサム、長見好高(小道具) 八木謙人(英語台本と英語指導) 喜久里誼(チェロ演奏指導) 清水きよし(身体表現指導) 田中禎子(身体訓練指導) 永野むつみ(人形製作と人形操作指導) 久家明子(靴製作) 松浦紘子(照明操作) 前村晴奈(音響) 福井健吾(舞台監督)		
主な出演者	(専属劇団員) 有田美由樹、松浦優海、門脇礼子、中村千恵子、上田郁子 伊達生、原敬彦、(地元俳優) 原田雅史		
ボランティア数	延べ94名		
入場料	一般(30歳以上) 前売2,000円(当日2,500円) U30(29歳以下) 前売1,000円(当日1,500円) グループ割引(一般3人以上) 1,500円(当日券なし)		
入場者数	6ステージ 747名		
稽古公開 ゲネプロ公開	稽古見学者数 7名 ゲネプロ見学者数 78名		
成果	① 演出家による作品解説で普及啓発を行い、観客の作品理解を進めた。 ② 在住の外国人の感想等をもとに、外国人にも理解しやすい作品に仕上がった。 ③ 島根県聴覚障がい者情報センターの協力を得て、聴覚障がい者にも稽古見学をしてもらい、彼らの意見を作品に活かすことができた。 ⑤11月2～5日に開催した「松江・森の演劇祭2017」にも出品し、国内外の観客にも提供することができた。		

事業名	人形劇団ひばぼたあむ公演「チップとチョコ」	分野	演劇
		創作種別	その他
助 成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業		
趣旨・目的	<p>「チップとチョコ」を上演する人形劇団ひばぼたあむは、指遣い人形を使って平土間会場で演じ、登場人物の動きの真実性を追究している日本を代表する集団である。この作品は、人形操作のリアリティとユーモア性が子どもの心に深く届くだけでなく、大人をも満足させるものとなっており、全国から公演依頼が絶えないという作品。人口減少、少子化の課題が山積している松江市では「子育てしやすい街」として、様々な行政サービスを行っているが、芸術文化の面でも確たる事業をすすめるなければならない。乳幼児から観劇できる優れた希少作品だ。</p>		
開催日時	<p>平成29年7月13日（木）14日（金） 7月15日（土）から始まる人材養成事業「しいの実シアター未来学校」の芸術体験でも観劇できるように取り組む。</p>		
開催会場	しいの実シアター		
上演時間	45分		
主なスタッフ	<p>【原作】どい かや（文溪堂刊） 【演出・美術】山根裕子 【作曲】松本ゆかり 【演奏】杉本麻奈</p>		
主な出演者	永野むつみ、松原由利子、大澤直、桑折康子		
入場者数	169名		
成 果	<p>多くの社会人と接する中で、各段に感性や想像力・創造性に長けている人の場合、幼児期に様々な体験をした、という話を聞くことがある。その中でも子どもの頃に数多くの舞台作品に触れていたという人の「目の確かさ」を感じることもある。幼少期の体験は、本人の記憶には残らないかもしれないが、その人の人間形成には大きく影響しているはずだ。</p> <p>今まで体験したことが無いという人口減少時代がやってくる。そういった時代に社会人となって生きていくことは、相当に厳しいものがあるはずだが、そんな時こそ、芸術体験の力は様々な面で役に立つはずだ。</p> <p>人形劇公演は、どの幼保園からも「子どもたちの感性を育てる作品ならぜひとも見せたい」という希望を聞く。県内の公立ホールでは子どものための事業があまりにも少なく、当事業実施の価値は大である。</p>		



<人材養成事業>

事業名	アートマネジメント講座
助 成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>松江市においては公立施設適正化計画が策定され、利用率等の低い施設は廃止、無料譲渡、民間買い上げなど厳しいプランが検討・実施されつつある。また、人口減、少子化、高齢化の未来に対応するためにも、常に継続してアートマネジメント力の向上を図らなければならない。そこで、29年度は劇場スタッフや専属劇団員、演劇祭ボランティア・クルーの学びの場として、①舞台監督講座、②照明講座、③表方講座、④地域のフェスティバル視察を実施して、劇場人としての力をつけていく。</p>
概 要	<p>①舞台監督講座 【会場】しいの実シアター 【対象】劇場スタッフ、専属劇団員 【参加者】10名 【講師】① 三木元太（東京演劇アンサンブル舞台監督・舞台美術家）</p> <p>②照明講座 【会場】しいの実シアター 【対象】劇場スタッフ、専属劇団員 【参加者】19名 【講師】大上勝己（アースオール株式会社） 清水</p> <p>③表方講座 【会場】しいの実シアター 【対象】劇場スタッフ、専属劇団員 【参加者】11名 【講師】永野むつみ（人形劇団ひばりあむ代表）</p> <p>④沖縄りっかりっかフェスタ視察 【会場】りっかりっかフェスタ各会場 【対象】劇場スタッフ 【参加者】2名 【講師】下山 久（りっかりっかフェスタプロデューサー）</p>
成 果	<p>各講座とも、劇場で働く職員として意欲的に参加できる内容であったため、相互の意見交換が活発に行われ、今後の劇場経営に大いに役立った。りっかりっかフェスタは、主催者代表から運営、経営、集客等について学び、今後、シアターで上演できる作品選定ができた。</p>



事業名	第5回ワークショップ指導者養成講座
助 成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	近年、小・中・大学へ出向いて痛感することは、どの年齢層も年々幼さが増し、「待ちの姿勢」が多く見られ、自ら能動的に他者に関わる力が著しく低下傾向にあるということだ。また、子どもたちの日々の暮らしの中でインターネットの弊害が顕著に表れている。こうした社会課題に対応するために、専属劇団員及び県内アーティストによる「表現・コミュニケーション力育成」の活動を継続し指導者養成に努める。
概 要	<p>【日程】平成30年1月21日（土）18：00～21：00 22日（日）10：00～15：00</p> <p>【会場】しいの実シアター</p> <p>【講師】蓮行 （大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任研究員） 演劇の社会教育に着目し、未就学児から社会人まで幅広い人を対象に、多くの演劇ワークショップを手掛ける。 専門は演劇、演劇教育、文化政策。</p> <p>【カリキュラム】実践も含めた、講座形式。</p> <p>【受講生】延べ16名</p>
成 果	過去2回、東京学芸大学・高尾隆氏の講座を企画し、実技中心の学びであったが、今回は、理論中心の蓮行氏から学んだ。これらの学びの積み重ねが、これからの県内のコミュニケーション教育の成長に繋がっていくはずだ。



事業名	大学等との連携
助 成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>①インターンシップの実施 若い世代が劇場業務や芸術活動等を学ぶことで、劇場や文化芸術に対してより高い関心を持つことができる。この取組の継続で、今後の劇場関係者や演劇鑑賞者の増加を図り、しいの実シアターの活動を広める。</p> <p>②講師等の派遣 島根県立大学短期大学部から、就職後3年未満の離職率が高いのはコミュニケーション力の低下に原因があるとして指導依頼があった。</p>
概 要	<p>① インターンシップの実施 平成29年7月～9月、平成30年3月 しいの実シアター（4名受入） 【カリキュラム】 劇場運営やアートマネジメントに興味を持っている大学生を受入れ、5日間、劇場の業務を体験してもらい、日々意見交換を行う。夏休みと春休みに実施する。</p> <p>② 講師等の派遣 平成29年4月（1回）保育学科のみのワークショップ 52名 平成29年4月～7月 毎週月曜日 9:00から12:10（計13回） 総時間数：52時間 島根県立大学短期大学部 体育館アリーナ 学生数：保育学科52名 講師：園山土筆、有田美由樹、前村晴奈、岩本桃子 【カリキュラム】 社会での「就業力」育成の準備段階として、良好な対人関係を構築するためにインプロゲームのワークショップを実施する。毎回、課題への取組と、自分自身の変化についての振り返りを実施することにより、自分の得手不得手を知り、キャリア形成に必要な自己表現力、コミュニケーション力を身につける。</p>
成 果	<p>①インターンシップの実施 プロスタッフ、もしくはボランティアスタッフとして劇場運営に加わってくれる優秀な人材を見つける素地ができた</p> <p>②講師等の派遣 表現・コミュニケーション力育成授業を実施することにより、大学生の意識が変わり、各自が自分の意見を持ち、他者に伝える力を学ぶことができる手助けができた。そして、シアターの活動や演劇に興味関心を持つ機会ともなった。</p>

<普及啓発事業>

事業名	しいの実シアター未来学校（第1期 2年度）
助 成	文化庁 平成29年度劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>急速な勢いで進行する少子化。目まぐるしいスピードで進む ICT 化。その中で子どもたちの暮らしは大きく変化した。かつては自然の中で工夫を凝らし次々と新しい遊びを考え出し、日の暮れるまで走り回っていた子どもたち。</p> <p>つまりく自ら出かけて行って、自分の目で見て、感じて考え、自ら決めて行動し、時に失敗してまた考えてはやり直してみる>ことなど。キーボードを叩いて得た知識だけでなく、自分の身体と心をフル回転させて、子ども時代にしか味わえない感動や充足感を創りだすこと。こういうことが何より重要ではないかと劇場スタッフは数年考え続け、昨年、未来学校第1期初年度を開校、期待以上の成果をみる事ができた。29年度は第1期2年目として「芸術体験」「暮らし体験」の2本立てを継続する。</p>
概 要	<p>【期間】平成29年7月15日（土）～17日（月・祝）3日間 各9：30～16：00</p> <p>【会場】しいの実シアター、かやぶき交流館</p> <p>【対象】開校2年目は、小学4年生から中学生まで</p> <p>【上演作品】人形劇団ひばりあむ「チップとチョコ」を上演</p> <p>【人形操作講師】人形劇団ひばりあむ 代表 永野むつみ</p> <p>【コミュニケーションワーク講師】 有田美由樹</p> <p>【カリキュラム】人形を手にはめ、セットの中で実際にやってみる。 簡単そうに見えても、実は相当な技術が必要であることを知る。 うまくなるためには、どんな力を習得すればいいかを知る。 たくさんの材料から自分の独創性を活かした人形をつくる。</p> <p>【参加者】9名 【観客数】51名</p>
成 果	<p>初年度の参加者保護者アンケートでは「芸術体験」「暮らし体験」の両方において、子どもたちの前向きな変化の様子が多く報告された。順次事業を展開していき、子どもたちだけで劇場運営ができるシステムを創っていくことができるようになるだろう。</p>
課 題	<p>・「チップとチョコ」は、近隣の幼稚園、保育園からも集客し、一般観客も誘客していきたい。</p>

<自主事業>

事業名	「ゼロ弾きのゴージュ」 グラントワ公演
趣旨・目的	島根の子どもたちは、どのくらい演劇に接しているだろうか？学校予算の縮小で社会人になるまで観劇経験が無いという人も増えてきている。このような状況の中で、グラントワからゴージュ公演の依頼があったので、実施することとなった。
概要	<p>【主催】島根県、(公益財団法人)しまね文化振興財団(いわみ芸術劇場)</p> <p>【共催】芸術文化と触れ合う協議会 【協力】益田おやこ劇場</p> <p>【支援】文化庁</p> <p>【日程】2017年6月2日(金) 仕込み 6月3日(土) 公開ゲネプロ</p> <p>【会場】島根県芸術文化センター「グラントワ」小ホール(益田市)</p> <p>【観客数】364名 【前日のゲネプロ公開入場者数】 25名</p> <p>【事前ワーク】2017年5月27日(金) 13:00~14:30</p>
成果	<p>①演劇鑑賞経験の無い子ども、少ない子どもに観劇の機会をつくることができた。②県西部の人にあしぶえの活動を知ってもらい、活動の幅を広げることができた。</p> <p>②チケットを購入しワークショップを希望する子どもには、5月27日に、事前ワークショップとして、親子連れ、明誠高校演劇部生徒、一般ら20名を対象に作品解説とコミュニケーションワークを実施した。その結果、受講生にとっては、見る力、感じ取る力、想像力等が刺激され、より演劇の楽しさを伝えることができた。</p> <p>④グラントワとしいの実シアターの劇場間連携を推進することができた。</p> <p>④久しぶりの旅公演の体験や異なる劇場で上演する学びがあった。</p>

事業名	演劇公演事業 松江地区高校演劇合同公演
趣旨・目的	松江地区の各高校演劇部の生徒が合同で演劇作品を上演し、生徒同士が交流し、同級生や保護者に提供する。シアターの開館以来、年1回発表の場として定着している。29年度からは、よりきめ細かく支援していく。
概要	<p>【日程】平成30年3月17日(土)~18日(日)</p> <p>【内容】松江地区の高校演劇部が合同で公演に取り組む。</p> <p>【観客数】160名</p>
成果	<p>演劇は大劇場で観るものではなく、最高300人までの小ホールで観ることが最良であることを知り、小劇場の良さを満喫することができたようだ。</p> <p>高校生自身で照明、音響のオペレーションを担当し、表方作業も行い「自分たちの劇場」のように活動体験できたことは、大きな喜びとなった。以後、高校生たちが度々シアターを訪れるようになり、30年度は、高校生も含めた「ユース公演」も企画されることになった。今後の進展が期待される。</p>

職員の人材育成のための研修参加状況

		実施月日	実施場所	従事者
研修	ステージテクニカルアカデミー 参加 地方都市から考える専門人材育成 受講	H29/9/26	島根県民会館	2名
研修	全国公立文化施設協会 アートマネジメント研修会2017 参加	H30/1/17~19	国立オリンピックセンター	4名
研修	テクニカルシアタートレーニング プログラム 舞台音響中級講座受講	H30/1/26	世田谷パブリックシアター	1名
研修	島根県公文協実務者会議<接遇研修> 受講	H30/1/31	島根県民会館	3名
研修	情報セキュリティ対策セミナー 受講	H30/2/8	松江テルサ4F大会議室	2名
研修	足場の組立作業等、作業従事者 特別講習 受講 資格取得	H30/2/28	米子文化ホール イベントホール	1名

<建物管理>

1. 照明・調光卓の充実

劇場建設以来、大切に使用してきた照明・調光卓が劣化・故障し、修理しながら常に不安感をもって公演と演劇祭を続けてきたが、ようやく29年度に新機種と交換されることになり、「松江・森の演劇祭」では、安心して使用することができた。

<樹木管理>

1. 「小さな森づくり」に力をいれる

シアターが、お客さまから「森の劇場」と呼ばれるようになって4年ほどになる。その頃から松浦造園（株）の協力を得て、樹形が上に伸びるように剪定してもらい、風通しを良くしてきた。今年度は、今までにないほど、思い切って樹形が整えられた。その結果、11月に開催した「松江・森の演劇祭」では、美しい紅葉に彩られた「小さな森」が出来上がり、国内外から訪れた多くの方々に喜ばれた。特に、スペインからやってきた「きりん」の行進は、家族連れや高齢者の皆さんに森の中のイベントとして楽しんでいただくことが出来た。森づくりは、これから時間をかけて本格的に創り上げていく。

2. ボランティアとシアター職員による草刈の実施

春の草刈は、5月28日（日）に八雲町内外のボランティアを募り、専属劇団員、法人のサポート会員と共に合計22名で行った。秋の草刈は、日数をかけて職員数名が行い、春・秋ともに刈った草の処理と仕上げを松浦造園（株）に依頼。また、日常の草刈は、シアター職員と地域のアルバイトで実施した。

<課題>

1. 松江市指定管理料の事業費及び演劇祭予算の見直しを

将来予測される未曾有の人口減、少子化に対応して、しいの実シアターとしても効果的な事業を企画し、今まで以上の力を発揮したいと考えている。そのためには、事業費と演劇祭予算の見直しが急がれる。

現在の事業費、演劇祭予算共に必要な最低額よりも低いのが現状である。また、職員の人材育成として国内研修に出掛けているが、これらのほとんどは自費である。

障がい者雇用助成金やあしぶえが実施する小・中学校でのコミュニケーション事業、島根県立大学非常勤講師等の他の事業収入、NPO正会員会費、サポート会員会費、寄付金収入等は、NPO法人あしぶえの屋台骨を担う経費であるが、これらの経費を毎年度、しいの実シアターの事業費に充てざるを得ない状況となっている。しまね定住財団から2年間補助されていた人件費補助金は、29年度で終了となった。市の財政は今後も厳しい状況は続くが、若くて優秀な人材を確保して、劇場法等の法律を遵守しながら交流人口、活動人口、関係人口の拡大に努力し、「松江・森の演劇祭」が、国内外から誘客できるようにするためにも、事業費と演劇祭予算の見直しは急務である

2. 音響機材の取替について

音響機材については、シアター建設以来 23 年間、1 度も本格的な機器の取替は行われていない。そのため、近年は、本番毎に危機感を持って操作せざるを得ない状況である。30 年 3 月の、業者点検（篠本照明）では、スピーカーの劣化が限界であるとの指摘を受けており、危険な状況が続いている。

本番中に不測の事態が起きた時は、公演中止もやむを得ない状況となっている。

3. 吊物点検業者からの指摘

上記に記載されているように、劇場建設から 23 年が経過し、ステージ上部から吊られている幕類、アッパーホリゾントライトなどのワイヤーの劣化が進んでいる。この点についても 29 年度の吊物点検（電動照明バトンやライトの点検）で業者の指摘を受けた。地震の多い昨今、大きな不安材料であるため早急な対応が迫られている。

3. 劇場敷地面積の確定について

劇場敷地面積については、指定管理者仕様書には 8155.62 m²と記載されているが、地籍図のどの部分にあたるのかが不明で草刈作業を業者委託する際も明確に指示することができず大変困っている、松江市に対しては、27 年度当初から敷地エリアの決定を依頼している。

4. 雨漏り修理について

屋根の雨漏りについては、10 年近い前から度々の改善を試みているが、未だ止まっておらず、雨漏りの箇所も少しずつ変化しているため、松江市に修理対応をお願いしている。

<29年度事業報告>かやぶき交流館の管理・運営事業

主な活動内容

「松江・森の演劇祭」の開催年であった29年度は、かやぶき交流館の専従スタッフだけでなく、しいの実シアタースタッフの全面的な協力と支援によって、様々な行事が良好に実施できた。利用者アンケートでは、貸館利用者76件中56件が回答し、**建物設備とスタッフ対応について100%の満足度が得られた。**

<貸館事業>

積極的に貸館利用を行って、利用料収入が前年度比171.4%増となった

講座名等	住所	利用者数
器と花とハーブのある暮らし	松江市古志原	1,150名
将棋大会	松江市古志原	40名
つくるつくられる展	安来市広瀬町	200名
更生保護女性会総会	松江市八雲町	25名
雲東ブロック商工会女性部研修会	松江市宍道町	70名
しいの実シアター未来学校	松江市八雲町	81名
保育士採用2～5年目研修	松江市津田町	89名
サトウ式リンパケア講座	松江市雑賀町	50名
点描画ライブアート、カフェアート講演会	松江市田和山町	185名
春、秋洋装展	松江市西川津町	73名
松江フォトツアー	松江市玉湯町	15名
秋色マルシェ	松江市上乃木	100名

<自主事業>

各種事業との連携を図り、前年度比187.4%増の利用者数を記録した

29年度は、松江・森の演劇祭などと連携して下記の事業を実施した。

各事業とも、しいの実シアターのスタッフが重要な役割を果たして、交流館全体の好感度を高めた。

事業名と利用者数	日程	内容
八雲ゆう遊こいのぼり	4月23日(日)～ 5月20日(日)	八雲町日吉親水公園で開催された町内イベントと連携してかやぶきの物品を販売した。
こいのぼりスタンプラリー 【78名】	4月23日(日)～ 5月20日(日)	こいのぼりイベントと連携して、スタンプラリー会場となって、家族連れ等の利用者増を図った。

蕎麦ランチの提供 【149名】	6月18日(日) 7月2日(日) 7月23日(日)	「セロ弾きのゴーシュ」しいの実シアター公演と連携して、観客へ蕎麦ランチを提供した。
かやぶきレストラン運営 【400名】	11月3日(金)～ 11月5日(日)	「松江・森の演劇祭」と連携して、来場へ昼食・夕食を提供した。
かやぶきマルシェ運営 【2,500名】	11月3日(金)～ 11月5日(日)	「松江・森の演劇祭」と連携して、出店者57店舗の協力を得て、テントマルシェを開催した。
カフェ運営 【493名】	11月12日(日)	「来て！見て！やくも収穫祭」と連携して、カフェと物販を実施した。
物販活動 【190名】	通年	物販販売

<施設管理>

1. 玄関土間改修工事で利用者の安全が確保された

経年劣化によって玄関土間にくぼみができ、利用者数名が軽傷を負ったことから、改修工事をお願いしていたが、29年度に改修工事が実施され、安全性が確保された。

2. 庭の劣化した岩の造形物が撤去され安全が確保された

庭の岩造形物の内部に蜂の巣ができ、子どもへの影響が心配されていたが、撤去によって安全が確保されると共に、庭が広々として、景観が良好となり、来場者からの好感度が上がった。

<課題>

通路の改修工事について

駐車場から建物に入るまでの通路（アプローチ）が、凸凹になっており、利用者からは、整備の不備に対して度々不満の声が挙がっている。

デイサービス、介護施設等の遠足、休憩利用、展示会、販売会等の会場使用が増加しており、車椅子通行、車椅子対応車、資材搬出入車の安全性と利便性を上げるため、駐車場からのアプローチの拡幅改修工事が急務である。



<29年度事業報告> 松江・森の演劇祭の運営に関わる事業

名称を「松江・森の演劇祭」に変えて、0歳から楽しめるフェスティバルとなりました！

事業名	松江・森の演劇祭2017		分野	演劇
助成	文化庁 平成29年度 劇場・音楽堂等活性化事業			
連携	兵庫県豊岡市・豊岡市民プラザ、普通寺市・四国学院大学			
趣旨・目的	「松江・森の演劇祭」は、限りある予算の中で最大限の努力を払ってきた結果、回を重ねる毎に観劇者数、好感度も上がって来た。しかし、依然として多くの松江市民にとって自分たちの街の演劇祭だという認識にはなっていない。そのため、松江市を代表する演劇祭に育てていく。また、子どもから高齢者までが満足する演劇祭となるよう企画・運営していく。			
実施期間	平成29年11月2日(木)～5日(日) 5カ国14集団15作品(無料公演含む)			
会場	しいの実シアター、アルバホール、八雲公民館、平原会館、かやぶき交流館			
入場料	大人(19歳以上) 1,500円～2,000円 子ども(18歳以下) 500円～1,000円			
入場・参加者数	参加者数 12,514人 観客数 5,564人			
主なスタッフ	【プロデューサー】園山土筆 【アシスタントプロデューサー】前村晴奈、丹治晴香 【ボランティアマネージャー】有田美由樹、須山美玲、米田裕幸、須山佐智美、三島秀子 【舞台監督・舞台・照明・音響】(株)篠本照明、吉中詩織 【通訳・翻訳】八木謙人、景山聡子、原田亮、岩本桃子			
上演	スイス	カンパニア・バッカラ	ぶすぶす	
	フランス	ポリーナ・ポリソヴァ	GO!	
	スペイン	シリキテラシアター	きりん	
	ドイツ	タレイアスカンパニー	レッドくんのもくようび	
	日本	エーシーオー沖縄	沖縄燦燦	
	日本	人形劇団ひぼぼたあむ	「かえるくん・かえるくん」「ハリネズミと雪の花」	
	日本	あしぶえ	「ゼロ弾きのゴーシュ」	
	日本	チリンとドロン	「チリンとドロンのコンサート」	
	日本	清水きよし	「マイム・ファンタジア」	
	日本	くらしき作陽大学子ども教育学部 児童文化部ぱれっと	「わらべうたと人形劇おすわりくまちゃん」	
	日本	人形劇団むすび座	「父と暮せば」	
日本	地元劇団等	無料公演4作品		

成果と課題	<p>①演劇祭の名称変更は、一般市民、企業、商店の意識も変えていきつつある。</p> <p>②0歳からの鑑賞作品により、ファミリー層の集客に拡がりが出た。</p> <p>③上演は、娯楽性、大衆性、芸術性を併せ持つものを選定し、満足度を高めた。</p> <p>④県内及び県外からの観客増を目指したことにより、確かな成果が得られた。</p> <p>⑤財政的には、寄付金減、文化庁補助対象経費が当初金額より減少した等により、厳しい結果となった。</p> <p>日本政策研究大学院大学教授・垣内恵美子氏の評価・感想</p> <p>【成果】</p> <p>①20代から30代の若者層、子育て世代が増加し、どの世代からも関心をもたれる演劇祭となった。</p> <p>②県外からの来場者が22.2%となり、前回の約2倍になったことは評価できる。</p> <p>③全体に対する満足度が大満足48.7%、満足23.6%と高い満足結果となった。</p> <p>④演劇祭継続への要望は、非常にそう思うが72.4%、ややそう思うが13.2%で、継続の要望が非常に高かった。</p> <p>【課題】</p> <p>①演劇祭への初めての来場経験は、前回とほぼ同様の62.2%で、リピーター確保も必要。</p> <p>②人口減少や少子高齢化等、地域が抱える様々な問題に向け、劇場スタッフや専属劇団、松江市行政がより一丸となって共創することが欠かせない。</p> <p>③気軽にアクセスできるよう、交通の利便性の向上は必須。</p> <p>④どのように演劇祭の魅力を持続、発展させるか、共に創るボランティアの組織化、サービス強化を図り、ボランティア満足度も高い演劇祭を目指すこと。</p> <p>⑤しいの実シアター周辺のエリアをより充実させ「どこにもない演劇祭」を目指してはどうか。</p>
-------	---

講演の依頼を受けて講師として出掛けました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講演	松江ライオンズクラブ	H30/2/2	ホテル一畑	1名	60名

寄付をいただいた企業に対してお礼ワークを行いました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
研修	山陰総合リース	H29/11/10	本社 会議室	2名	46名
研修	JA共済連島根	H30/1/24	島根JAビル 大会議室	2名	50名

演劇祭視察に出かけました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
視察	りっかりっかフェスタ	H29/7/28~30	沖縄県那覇市博物館ほか	2名	多数

<29年度事業報告>

物 販 事 業

27年度から「物販事業」という名目で正式に始めたこの活動は、グッズや地域産品等を販売して法人の運営費を補うために開始し、収益増に努めました。

<29年度事業報告> サポート会の活動

項 目	サポート月例会
月例会	【日時】 29年度は、松江・森の演劇祭の開催年であったため、サポート会メンバーは、フェスティバル・クルーとしての活動が山積していたので、開会はなし。

項 目	NPO会員親睦交流会のサポート
内 容	第12回総会終了後、親睦交流会を開催し、手づくり料理を提供していただきました。
概 要	【日時】 2017(平成29)年5月14日(日) 【会場】 しいの実シアター

項 目	「セロ弾きのゴーシュ」のサポート
内 容	受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などをサポートしていただき、成功裏に終了することができました。
概 要	【日時】2017(平成29)年6月18日(日)、7月2日(日)、23日(日)

項 目	しいの実シアター草刈りのサポート
内 容	しいの実シアター敷地内の草刈りをサポートしていただきました。
概 要	【日時】 2017(平成29)年5月28日(日)